

秋田県名誉県民 明 石 康 氏 功績



生年月日 昭和6年1月19日生

顕彰年月日 平成5年9月30日

【功績】

北秋田郡比内町に生まれ、昭和23年旧制秋田中学を卒業後、旧制山形高校、東京大学教養学部教養学科アメリカ科を卒業する。その後、同大学大学院国際関係論課程、バージニア大学大学院、フレチャール法律・政治スクール大学院及びコロンビア大学大学院を修了した。

日本が国連に加盟した翌年(昭和32年)、日本人初の国連職員(政務官)として勤務し、政治・安全保障理事会事務局、事務総長事務局、内部調整事務局などで主要幹部として活躍し、昭和47年には、国連大学設立委員会事務局長として同大学の東京誘致に尽力した。

また、昭和49年から54年の間、日本政府国連代表部の参事官、公使、大使を歴任し、第29回から33回までの国連総会の日本代表として、国際舞台における日本の地域の向上に貢献した。

さらに、昭和54年から広報担当事務次長として、また、昭和62年からは、国連憲章にも謳われている「国際の平和及び安全の維持」の実現のため、最も重要な課題である軍縮担当の事務次長として、東西冷戦構造、南北問題を抱えた国際情勢、さらには、その枠組みの崩壊など激変する国際情勢のなかで、高度な見識をもって、歴代の事務総長を支えた。

平成4年1月9日、平成3年10月23日のパリ和平協定を受けた、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)事務総長特別代表に任命され、昭和45年のクーデターに始まっ

たカンボジアの軍事的な混乱状況を正常化するため、非常な困難を伴うなかで「自由で公正な」総選挙の運営と監視の実施とともに、これにより選出された暫定国民政府の樹立などに優れた指導力を発揮し、国連史上最大規模の平和維持活動を成功へと導いた。

これは、一国の平和の確立にとどまらず、近隣諸国の民心の平安と激動期にある国際情勢のなかでの国連の果たすべき役割を明確にするとともに、国際和平の重要性を全世界に具現化したものであり、その功績は誠に大きなものがある。